

# 「かいふの海菜」育成事業

竹内 章・湯浅明彦

本県海部郡では、優れた海藻資源（サガラメ（以降アラメ）・ヒジキ・モズク・テングサ）が生産されている。しかしながら、資源の未活用、資源不足、非効率な生産方法といった様々な要因により生産量が制限されているのが現状である。

そこで本研究では、南部総合県民局水産振興担当の協力の下、未利用資源の有効利用、増殖、養殖、生産の効率化を行うことにより、海藻製品の生産拡大を目的とする。

## 材料と方法

### 1. アラメ刈り取り調査

美波町伊座利地区において利用されているアラメは、県漁業調整規則の関係から6月以降の採取しか認められていない。しかしながら、4～5月の若いアラメは、柔らかく、付着物も少ないことから市場のニーズは非常に高い。よって、将来的に、現在未利用となっている若いアラメを刈り取り販売することは、十分に考えられる。このことから、若いアラメを刈り取ることによるアラメ資源への影響調査を行った。

平成19年12月19日に刈り取り調査を実施し、平成20年03月27日に経過観察を行った。また、平成19年に伊座利漁協によって刈り取りが行われた、黒髪地区において、刈り取り後の経過観察を行った。調査地点は図1のとおりである。



図1 アラメ調査地点

### 2. ヒジキ増殖試験

商品の需要は非常に高い。しかしながら資源不足のため供給が追いついていないのが現状である。そこで、増殖による資源量の拡大を図るために、鳴門の粟田及び櫛木地区において、水産研究所の開発した天然採苗技術を用いて、ヒジキの採苗を行い、18年度に天然採苗した種網を海陽町浅川地区において展開し、観察を行った。

### 3. モズク体細胞の分離

現在試験養殖が行われている。しかしながら、平成18年度は冬場の高水温のため、養殖・天然共に不作であった。このことから、高水温時、天然に生えていたモズクの体細胞を分離・培養を試みた。

### 4. 徳島県産テングサに関する要望調査

近年、徳島県のテングサ生産量が減少している。主な原因として、漁業者の高齢化による作業効率の低下、着業者の減少が挙げられる。また、加工面の問題として、乾燥工程が天候により左右されること、異物除去に時間がかかること等も生産量抑制の一因となっていると考えられる。これらの隘路の他、改善すべき点を的確に捉えるために、徳島産テングサに対する業者からの要望や、主な利用法についてのアンケート調査を行った。

アンケート調査は、平成19年8月29日、第2回入札日に県漁連へ訪れた6社中5社に対して行った。

## 結果及び考察

### 1. アラメ刈り取り調査

刈り取り実施地点では、新規加入群と見られるアラメが多数確認されたのに対し、刈り取りを行っていない地点では、新規加入群は見られなかった（図3）。黒髪地区でも同様に、新規加入群が確認されたことから、刈り取りにより、新規加入が促進されることが推察された。今後の課題として、水温が上昇する夏季、及び現存量が減少する秋季から冬季にかけて、新規加入群が維持されるかどうか、経過観察が必要である。

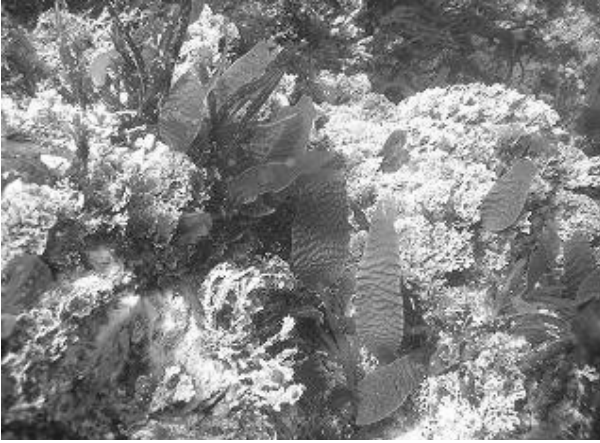


図2 刈り取り実施地点における新規加入群

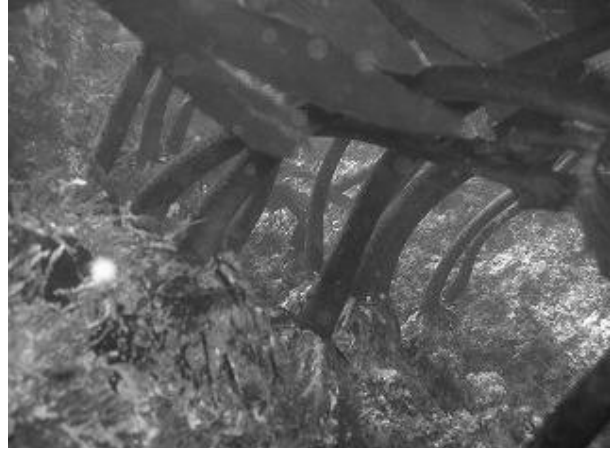


図3 刈り取り非実施地点

## 2. ヒジキ増殖試験

海陽町浅川地区において展開したヒジキの種網のうち、現在ヒジキの繁萌していない地点に展開した種網は、他の海藻に覆われるもしくは波浪によって破損する等の要因により、増殖が確認できなかった。一方、現在ヒジキの繁萌している地点に展開した種網では（図4）、生長が認められた。

以上のことから、より環境の良いところへ種網を展開することにより、高い効果が得られるという結果となった。



図4 岩礁へ設置したヒジキ種網

## 3. モズク体細胞の分離

分離・培養の結果、現在水研で保有しているモズクの種に加え、もう1系統高水温時に生育していたモズクの種を得た。

また、現在の播種方法では、海苔網にモズクの種が完全に付着しておらず、沖出しの際に大半の種が流出してしまう。そのため、網一枚あたりの収量が減少してしまうことが大量生産の隘路となっている。海苔網にモズクの種を付着させる技術の開発が今後の課題である。

## 4. 徳島県産テングサに関する要望調査

アンケートの結果を表1～3に示す。

平成19年度のテングサの入荷量は、平年並み、もしくは少なめであった。特に第2回入札では入荷量が少なかった。品質は、1回目の入札では、品質が良いものが多かった。しかしながら、一部地域のもは、品質が悪い（湿り、付着物多い）ものがあった。

徳島産テングサは、心太等の食品への利用及び棒寒天・糸寒天等の加工用原料としての利用がメインである。そのため、テングサの高品質化（淡水に短時間さらすことによ

表1 平成19年度テングサ入札における入荷量

		多い	普通	少ない
入荷量	第1回入札	0	3	2
	第2回入札	0	1	4

表2 平成19年度テングサ入札における品質の評価

		最良	良	普通	不良
品質	第1回入札	1	3	1	(一部)
	第2回入札	0	1	4	(一部)

表3 平成19年度テングサ入札における品質評価の概要

		多い	普通	少ない
湿り気	第1回入札		3	2
	第2回入札	1	3	1
他の海藻類の混入	第1回入札		3	2
	第2回入札	1	2	2
石灰藻の量	第1回入札	3	2	
	第2回入札		2	3
その他夾雑物	第1回入札		3	2
	第2回入札	3	1	1

る品質の向上等)は、ニーズが少ないという結論であった。また、業者からの要望として多かったのが、「(品質  
どうこうよりも)とにかくたくさんある方がよい」という  
回答であった。

アンケートの結果から、品質向上よりも量に関するニ  
ーズが高かったことから、試験研究による価格向上の余地が  
少ないことが判明した。よって、テングサに関しては今年  
度で終了とする。